

それでは、今晚のテーマは同性愛であります。同性愛の何が悪いのか。特にここ数日ニュースで報じられている通り、全米で同性婚というものが合法化に向かって、最高裁がそのように判断したということで、同性婚が合憲だということで、これからアメリカも同性婚というものが公然と行われていくようになっていくということを、みなさんもニュースで見聞きしたと思います。で、それはアメリカだけの問題ではなくて、世界全体の問題でもあります。アメリカ以外にももう既に複数の国が順次同性婚というものを制度化して取り入れております。で、その同性愛について私たちは聖書から、それがどんなものか、そしてその同性愛というものがどんなに深刻な罪であるのかということも教えられておりますので、世間とは全く違う見解をクリスチャンは持っているのであります。もちろんクリスチャンと自称する人の中にも、同性愛を歓迎している人たちもあります。クリスチャンを名乗りながらも、同性愛者という人もおります。同性愛の牧師もおります。同性愛の教会もあります。でも彼らは聖書を絶対的な基準とはしておりません。もっと言えば、彼らは聖書を信じていない、そのような自称クリスチャンでありますので、私たちは聖書を信じるクリスチャンとして、その言い方も少しおかしいと思いますけれども、クリスチャンなら聖書を信じるのは当たり前じゃないですか、と思うかもしれませんが、今の時代クリスチャンを名乗る人が誰もが聖書を信じているわけじゃないんです。聖書を自分の人生観、世界観、価値観に置いているとは限らないのであります。特に世の終わりになったら、そのような自称クリスチャンが、名ばかりのクリスチャンがどんどん増えてきます。ですから私たちもその中であって自分たちの立場というものをしっかりと鮮明に表明していきたいと思えます。世間が同性愛というものを歓迎して、それを公然と行っていくのであれば、私たちはクリスチャンとして、自分たちの同性愛に対する意見というものを、見解というものをやはり公然と表明していくべきだと思います。私たちが同性愛に反対だというと、差別していると言います。でも同性愛に反対と言う立場も差別されてはいけませんのであります。そこに矛盾があるんです。そのことも皆さんには考えて頂きながら、今からたくさんのお話しします。いろいろな具体的な情報とか、統計学上の数字とか、そういったことも触れていきますので、しっかりとついて来て頂きたいと思えます。

同性愛というのは英語では“ホモセクシュアル”と言います。“ホモセクシュアル”というのはギリシャ語の“ホモ”から来ています。“同じ”ということです。同じ性というのが“ホモセクシュアル”、それを日本語で同性愛と言うんですが、よく“ゲイ”とかいうふうにも言われます。“ゲイ”というのはもともと、これも英語でありますけれども、「陽気な」とか「派手な」と言う意味があります。そういった“ゲイ”という呼び名も定着しているので、またそれは特に男性同士の同性愛者を指して使われることが多いわけです。それとは別に女性同士の同性愛者というのものもあるわけです。それはよく“レズビアン”と言う風に呼ばれたりします。でもかつては英語では同性愛者のことを一括して“ソドマイト”sodomite 若しくは“ソドミー”sodomy と呼んでおりました。“ソドマイト”、“ソドミー”というのは、あのソドムという町の名前から来ております。“ソドマイト”というのはソドム人ということです。アブノーマルな性行為をする人々を“ソドマイト”。それは同性愛に限定されません。男も女も年寄りも子供も皆性的な対象となっている性的倒錯の状態。それが聖書に描かれているソドムの町の現状であったわけです。ですから同性愛も含むありとあらゆる性的不道徳のことを、かつては“ソドマイト”、そしてその行為を“ソドミー”。で、それが特に男色、男性が行う性的行為、肛門性交というものです。あるいは獣とセックスをする、獣姦と言うものです。そういったものも全部“ソドミー”というふうにかつては呼ばれておりました。そのソドムについては**創世記 19 章**にその邪悪ぶりが明確に描かれていますので、そこでは年寄りから子供まで、みんな

な誰もがセックスをして、町中でそのことは受け入れられていたという状態です。そういう行為をするのは一部の倒錯者だけで、いわゆる変態の人たち、と考えてしまってはいけません。ソドムというのはもうそのような性道徳というものが全くない、もうオープンでフリーで男だろうと女だろうと年寄りだろうと子供だろうと誰彼構わずもうセックスをしまくる。輪姦をする。1人の女性を大勢で性の対象として、そしてそれを合法化している、町ぐるみでそのような行為に走っていく。それがソドムの姿であります。その故事からアメリカにはかつてはソドミー法という法律があったわけですが。同性愛行為を処罰するという法律がありました。明治の時代にもそのソドミー法が日本にも施行されました。かつては、江戸時代までは、日本は同性愛というのはアブノーマルな性行為ではなくて、極めてノーマルな性嗜好でありました。明治になって開国してから、宣教師たちが日本に入ってきたわけですが。キリスト教文化が入ってきたわけですが。キリスト教の価値観が日本人にも伝えられて、同性愛という行為はよくないんだと。聖書においては罪だということで、法律においてもそのことが禁じられるようになりました。ですから今でこそ日本で同性愛者とか聞けば未だにまだタブー視される節があると思います。だんだん受け入れられて、市民権・公民権を今は持つようにはなってきましたけれども、私たちが若い頃とか、まだ同性愛というのは密かな行為であって、公然と行われるようなものではなくて、一部の人たちだけがそのような倒錯者であって、社会全体がそれを歓迎するような事はまず考えられなかったわけですが。

でも、明治の前は、江戸時代までは同性愛というのはもうポピュラーであったということです。実際に日本に初めて同性愛というものを持ち込んだ人がおりました、その人が元祖同性愛者とよく言われるんですけども、その人名は空海と言います。空海が中国に行き、唐の時代、中国に渡って、そこで同性愛の文化に触れて、それを日本に持ち帰って、それを仏教界において浸透させたわけですが。それを衆道と言います。お坊さんが本来は結婚出来なかったもので、男同士、お坊さん同士で、あるいは小僧という少年を相手に、セックスをするという衆道の元祖が、あの空海、弘法大師と言われております。

で、平安時代になってからも藤原頼長という左大臣も同性愛者としてはよく知られております。で、その後はずっと室町もそうですし、そして戦国時代も武将たちの多くは少年愛というものを嗜たしなみました。まあ、同性愛とは厳密に違うかもしれませんが。男は相手でも特に若い歳、少年に対して。で、奥さんもいましたから、両性愛者とも言えるわけです。まさに日本はかつてはソドムのような状況だったわけですが。織田信長の小姓の森蘭丸というのは有名です。少年愛を織田信長も楽しんでいたわけですが。豊臣秀吉以外のほとんどの戦国武将は、大抵は小姓を持って、その少年が性の対象となっていたわけですが。武田信玄もそうです。上杉謙信もそうです。直江兼続とかがセックスの対象だったわけですが。あるいは伊達政宗とか、徳川家康もそうです。家光もそうです。で、俳人でいえば松尾芭蕉が有名な同性愛者。『東海道中膝栗毛』の喜多さん、弥次さん。彼らは同性愛者です。そういう文学が日本に歓迎されて、同性愛というものはある程度の地位を確立していたわけですが。ところが江戸時代が終わって、明治に入って開国になったら、それは悪いことだと改めてキリスト教の価値観に触れて、そして多くの人たちがそのような悪習からも立ち返ったわけですが。で、しばらくはキリスト教の影響下にずっとあったんですが、こともあろうに今度はキリスト教界が同性愛に汚染されて、それがまさに今の現代の日本の教会にも影響をもたらそうとしているわけがあります。

で、聖書においてこのような同性愛については、たくさんの言及箇所があるので、今日はそのいくつかを皆さんにお聞き頂きながら、確認をして頂きたいと思っております。聖書は同性愛について何と言っているのかということです。

まずローマ人への手紙 1:24~28 を見て頂きたいと思っております。『²⁴ それゆえ、神は、彼らとその心の欲望のままに汚れに引き渡され、そのために彼らは、互いにそのからだをはずかしめるようになりました。

²⁵ それは、彼らが神の真理を偽りと取り換え、造り主の代わりに造られた物を拝み、これに仕えたからで

す。造り主こそ、とこしえにほめたたえられる方です。アーメン。²⁶ こういうわけで、神は彼らを恥ずべき情欲に引き渡されました。すなわち、女は自然の用を不自然なものに代え、²⁷ 同じように、男も、女の自然な用を捨てて男どうして情欲に燃え、男が男と恥ずべきことを行なうようになり、こうしてその誤りに対する当然の報いを自分の身に受けているのです。²⁸ また、彼らが神を知ろうとしたがらないので、神は彼らを良くない思いに引き渡され、そのため彼らは、してはならないことをするようになりました。』ここに描かれている通り、『女は自然の用を不自然なものに代え』、男も同じように『男が男と恥ずべきことを行なう』、『女が女と恥ずべきことを行なう』これが同性愛行為ということです。あるいは両性愛というふうにも言えると思います。男でも女でもということです。これは性的倒錯ですが、『神の真理を偽りと取り換え、造り主の代わりに造られた物を拝み、これに仕えた』という偶像礼拝がまず先に示されています。その結果、性的倒錯の罪が生まれていったわけです。ですから、まず本物の神と偽物の神の倒錯から全て始まっているということです。その結果、性的にも倒錯していくわけです。偶像礼拝というものから、それは人間の欲望、肉欲というものを正当化して、それをむしろ奨励するものです。ますます欲望に生きるように、野望を果たすように。まあ、そのような肉欲を賞賛する偶像礼拝が、結果的に性的倒錯へと私たちを誘^{いざな}って行く。その最悪の形が同性愛という行為であります。

私たちの造り主は人間を男と女に造ったんです。神によって結婚の制度が設けられました。それは一夫一婦制です。人間が勝手に結婚という制度を作ったんじゃないです。結婚という制度は、造り主の神様が制度化されたものです。マタイの福音書 19 : 4 ~6 節『⁴イエスは答えて言われた。「創造者は、初めから人を男と女に造って、⁵『それゆえ、人はその父と母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりの者が一体となる。』と言われたのです。それを、あなたがたは読んだことがないのですか。⁶それで、もはやふたりではなく、ひとりなのです。こういうわけで、人は、神が結び合わせたものを引き離してはなりません。』大抵結婚式でもこの箇所は朗読されたりします。でも、同性婚が合法化されたらこのような聖書の箇所はもはや結婚式では読まれなくなります。これを読んだら差別になるわけです。男と女と。これが創造者がお造りになったものです。男と男、女と女同士が結婚するとは、神様はおっしゃっておりません。

ですからアメリカでこれから同性婚が合法化されたら、同性婚というものを司式しなければいけなくなります。「聖書によれば同性愛は罪なので、私は牧師ですけれども結婚式は挙げられません。同性婚の結婚式は出来ません。」と言ったら、それは差別したということになりまして、何らかのペナルティが課せられるようになります。罰金もさることながら、投獄されることもあると思います。で、日本でもそれが必ず遅れて入ってきますので、今はキリスト教式の結婚式というのが日本では 7 割位を占めています。でもこれからは同性愛者同士がキリスト教の結婚式を挙げたいと言い始めるわけです。で、牧師はそれに対応しなければいけないわけです。しなかったら私は訴えられて、また莫大なお金を支払うように命じられるわけです。それが出来なければ牢屋に入れられることもあるかもしれません。そういう時代になってきているんです。

しかし聖書は、創造者は、人を男と女に造ったんです。でもこれを認められない偶像礼拝者は、自分たちの性的欲情というものを止められないので、この神の真理を偽りと取り代えて、造り主の代わりに造られた物を拝んで、これに仕えて、そしてますます自分たちの欲情のままに、まるで動物のように生きていくわけです。それが同性愛という状態です。で、聖書はそれを明確に禁じております。レビ記 18 : 22 にこう書いてあります。『あなたは女と寝るように、男と寝てはならない。これは忌みきらうべきことである。』同じくレビ記 20 : 13『男がもし、女と寝るように男と寝るなら、ふたりは忌みきらうべきことをしたのである。彼らは必ず殺されなければならない。その血の責任は彼らにある。』世間が何と言おうと、聖書は同性愛行為というのは、これは罪であって禁止事項だということです。

自由な恋愛をすとか、これは性的嗜好の問題ですとか、好みの問題です、あるいは「これは生まれつ

きの傾向なんです。性同一性障害というこれは生まれつきの傾向なんで、むしろそれが自然なんです。」そういう意見も飛び交っていると思いますけれども、それは世間の世俗の意見であって、聖書の意見それを先ず私たちは押さえたいと思います。それが罪だと言っているのは**第一コリント 6:9 ~10**に明記されています。『**あなたがたは、正しくない者は神の国を相続できないことを、知らないのですか。だまされてはいけません。不品行な者、偶像を礼拝する者、姦淫をする者、男娼となる者、男色をする者、**(男娼となる者、男色をする者というのが同性愛と言うことです。) **10 盗む者、貪欲な者、酒に酔う者、そしる者、略奪する者はみな、神の国を相続することができません。』**明らかです。男娼とか、男色をするというのは普段はあまり使わない言葉だと思いますが、江戸時代まではよく使われたわけです。今はそれを同性愛というふうによく言います。あるいは“ゲイ”と言ったりするわけです。この同性愛の罪は明らかに神の国を相続出来ない、天国に行けないほどの致命的な罪だと言われています。但し誤解してはいけないのは、他の罪も同性愛と同じく、ここに併記されている罪も同じほど深刻な罪だということです。“不品行な者”というのは、これはありとあらゆる性的な罪です。同性愛行為を含まない“ポルネイヤ”というギリシャ語ですから、ポルノの語源です。ポルノの中毒になっている者、そして“**偶像を礼拝する者**”と続きます。で、“**姦淫をする者**”これは婚外交渉、或いは婚前交渉です。結婚という枠組み以外でのセックス全般。不倫をする。これも同性愛と何ら変わらない罪だということを知ってください。ただ、同性愛を合法化するとなれば、ここにある罪も合法化されることとなります。「ポルノも合法化しましょう。」或いは盗みも。いろいろここにある罪がもし合法化されたら、どうなっていくのか。社会は無秩序になります。崩壊すると思います。今回同性婚というものが合法化されたという事は、これから社会が無秩序に進んでいくことを示唆しています。

また**第一テモテ 1:9 ~10**にはこうあります。『**すなわち、律法は、正しい人のためにあるのではなく、律法を無視する不従順な者、不敬虔な罪人、汚らわしい俗物、父や母を殺す者、人を殺す者、** **10 不品行な者、男色をする者、人を誘拐する者、うそをつく者、偽証をする者**などのため、またそのほか**健全な教えにそむく事のため**にあるのです。』“男色をする者”という部分が同性愛行為ということですが、でも、それ以外にもここにリストアップされている罪も同じほど深刻な、致命的な罪だということも忘れてはなりません。

すべての罪がそうでありますように、同性愛も禁じられているから悪いんじゃないんです。悪いから禁じられているんです。この同性愛という罪が、どれほど人間にダメージをもたらすのか、損害を、弊害をもたらすのか。造り主はそのことをご存知なわけです。神様の定めた基準、いわば憲法というものがある、それに違反するもの、それから外れるものが罪というわけです。でも、それは私たちのために作られたものです。何で禁じられているのか。それは私たちにとって計り知れないダメージをもたらすからです。親が子供のためにルールを作ります。そのルールというのは、子供のためを思って作るわけです。子供の益にならない事、逆に子どもにとって極めて危険で有害なものについては、禁止事項を設けるわけです。それは親として当然です。子供を守るためです。でも、子どもの側ではそれを良しとしないわけです。「おもしろくない。なぜ禁じられるのか。」理解出来ないわけです。でもある一定の歳になったら、何のためにそういうルールが設けられたのか、ということも理解出来るようになるかもしれませんが、私たちを愛して止まない天の父は、「それは罪である。それはあなたを傷つけ、あなたの人生を台無しにするものだ。あなたを滅びに至らしめるものだ。」とおっしゃって、その罪を禁じているのであります。究極的には天国に入れなくなったら、もう希望が無いわけです。

それ以外にも様々な損害、弊害というものを同性愛はもたらします。どれぐらい同性愛という罪が悪いのかということ、今から4つの理由を皆さんに取り上げてご紹介しますので、メモしたい方はしっかりメモしてください。

まず第一に同性愛は心理的損傷をもたらすということを知ってください。心理的な損傷です。同性愛には先天的な要因がある、とよく主張されます。先天的というのは、生まれつきということです。人間の性的嗜好を決定するのは、それは遺伝的な要因によるもの。もう生まれつきだということです。胎生期のホルモンの異常によって構造的な特徴に由来するんだというようなことを言って、性同一性障害とよく言われたりします。でもそれは名前こそ立派ですけども、実際には根拠のない呼び名であります。それを障害とまで言い切れないということです。科学的な根拠、医学的な根拠は未だありません。なのにそれがあたたかも、もう生まれつきの傾向でそれがむしろ正しいと。体は男でも心が女である。或いはその逆に体は女でも心が男であって、そこで悩んで苦しんでいるので、そのためにそういう人たちを認めてあげて、受け入れてあげて、差別しないようにしましょうと。それは性同一性障害と言うものだから、かわいそうなんです。理解してあげましょうよと。彼らの権利、人権というものを認めてあげましょう。というふうに主張されるわけです。まあ、それは皆さんもいろんなことで考えさせられていると思います。確かに彼らは苦しんでいると思います。性同一性障害と診断を受けた人も、まだそのような正式な診断を受けてなくてもそういう傾向のある人は、常に自分のアイデンティティーというものに悩んでいると思います。自分は男なのか、女なのか、よく分からない。どっちに帰属するのか。その中で非常に辛い思いをしているというのは、それは事実だと思います。でも、そのためにいわゆる治療を行うわけです。ホルモン剤の投与であったり、或いは究極的には性別適合手術、性転換手術というものを行ったりして、何とかしてそのような苦しみから自らを解放しようと躍起になっているわけです。その性別適合手術、いわゆる性転換手術というのは、これは患者の自己責任で全て行われます。患者の自己責任ですから、医者が判断するんじゃないんです。自分がそうしたい、と言ったらそれで出来るわけです。でもあまりにも無責任です。それに適応するある程度ガイドラインはありますけれども、そのガイドラインにももちろん医学的な、科学的な根拠はありません。本人が、患者がそうしたいと言えば、それで出来るわけです。それで生殖器を切り落とす、パイプカットをすとか、いろいろ整形手術をすとか、子宮を取り出したりとか、性器を新たに作ったりとか、豊胸手術をすとか、そういった事を患者の希望に合わせて医者は行うわけです。

で、それさえ受ければ自分はこの苦しみから解放されると思っていた人たちが、手術をした後で後悔するわけです。「やめておけばよかった。それをしたところでなんら変わらなかった。この苦しみからは結局逃れられなかった。」ということで、多くの者は後悔して、多くの者は自殺までしております。でもそれが野放しにされているわけです。生まれつきの傾向だから差別してはいけないと、まことしやかにそう主張されますけれども、じゃ生まれつきでなければ差別していいのかということにもなります。後天性の場合はいいいのかと、差別していいのかと。生まれつきの傾向は差別してはいけないけれども、生まれてからしばらくして同性愛者として生きていく、そういう人はじゃあ差別していいのかという問題にもなるわけです。だからそこは非常に曖昧なところであります。セクシャル・マイノリティ、性的少数派という言葉を使って、如何にも彼らが社会的に弱い者であるかというような印象を与えて、そして彼らの権利を認めてあげましょうよ、かわいそうだから、というふうにアプローチされるわけです。生まれつきなんだから仕方がないですと。

でも、同性愛以外にもいろいろな生まれつきと思われる傾向があるわけです。まあ、それは性的嗜好だけではないと思いますけれども、でも性的嗜好の中だけでも、同性愛以外にもいろんな嗜好があります。ある人は少年愛に走るわけです。まあ、小児性愛です。児童ポルノとかいうものです。ある人は動物性愛というのをもちます。「私は犬とセックスをしたいんです。犬と結婚したいんです。」という人もあるわけです。またある人は疼痛性愛とうつうせいというのをもちます。疼痛性というのは、痛めつけるいわゆる SM です。サディズム・マゾヒズムと呼ばれるもので、それによって性的に興奮して、それがもう生まれつきの

傾向なんです。あの少年 A のように、子供を殺して、そして快楽殺人をして、そこで自慰行為を行って、性的満足を得る。手記が最近出されましたけれども、そういう性的嗜好もあるわけです。それも認めてあげなければいけないという話になりかねません。生まれつきだと言い張れば、それまでであります。ですからこれはもともと性同一性障害という名前は付いていても、そのような障害というものは存在しません。それは病気じゃないんです。WHO はもう明確に、同性愛というのはこれは病気ではないと言っています。治療の対象にはならないと。でも治療行為が行われているわけです。矛盾しているわけです。病気じゃないと言っているのに、治療が行われて、病気だと言い張って。病気だと言えば、皆同情が得られるわけです。もちろん性的な傾向以外にも、暴力的な傾向もあるわけです。生まれつき暴力性がある。生まれつき虐待性がある。生まれつき盗癖がある、人の物をかっさらう。妄想癖もあると。そういったものが全て“生まれつき”という名のもとに正当化されてしまうということです。もし同性愛をそのように正当化していくならば、他を合法化していく事は必至だと言えるかと思えます。同性婚以外にもそのうちに児童婚が出てくると思います。一部のイスラム圏では小さな子供と結婚して、無理矢理犯すわけです。でもそれは合法化されていますから、犯罪にはならないわけです。まだ本当に 10 歳とか 9 歳とか、年端もいかないという少女を金で買って、合法的にセックスの対象として児童婚というものをやるわけです。一応結婚するわけですから、児童ポルノとは違います。あるいは近親婚も OK になります。お父さんと、お母さんと結婚する。兄弟と結婚する。重婚も OK です。いわゆる一夫多妻とか、それも合法化されなければいけません。そういう傾向だから。獣婚も「ペットと結婚します。猫と結婚します。」それも認めざるを得なくなるわけです。ですから今私たちが受けている波と言うのは、全部根拠のないプロパガンダだと思ってください。同性愛者が自分たちの性的嗜好を正当化して、それで市民権を得て、自分たちのやりたいように、自分たちがこの社会で生きやすいようにプレッシャーをかけてきているということです。で、それを後押しする人たちも、協力者も、支援者も大勢いるということです。何故そういう協力者、支援者が沢山出てくるのか。その理由も後でお話したいと思いますが、でも実際のところは同性愛というのはむしろ先天的な理由よりも、後天的な理由であることが大多数であります。すなわち環境因子というもの、或いは心理的な理由といったものです。それが大多数です。それは同性愛者に聞けばすぐ答えてもらえます。幼い頃に幼児虐待を受けたとか、正常でない親子関係があったとか、同性ばかりの環境で育ったとか、思春期のその専門分野に対する過度の集中が生み出した性意識の成長障害というのものもあるわけです。ですから、10 代の時になって、思春期になってから初めてそういう同性愛に芽生えたというような話もよく聞くわけです。生まれつきとは限りません。大半の人たちは幼少期とか、あるいは思春期の頃にそのような同性愛にいわゆる芽生えるということをするわけです。でもその間ずっと自らのその性に対するアイデンティティというものにずっと悩み苦しみ続けるわけです。さっきもお話した通り、それによって自殺する人もあるわけです。

で、2 番目の同性愛が悪いという理由ですけれども、それは生理的な破壊をもたらすという理由です。1981 年にアメリカにおいてエイズという病気が初めて認められて、エイズ患者というのが認められて、それが 1981 年の事でしたけれども（まあ、それ以前からエイズというものは存在していたと指摘されていますが）、確認されたのは 1981 年アメリカであります。それ以来世界で累計数約 7,800 万人がエイズウイルス HIV に感染して、3,900 万人がエイズ関連の疾病で、合併症等でも死亡しているわけです。国連合同エイズ計画によりますと、2013 年末現在ですが世界の HIV の感染者（陽性者数です）これは 3,500 万人。で、新たに新規に HIV 感染者となったのは年間で 210 万人です。多少減少傾向にあると言われているのですが、でもエイズによる死亡者数というのは年間 150 万人と言うことです。アメリカとかヨーロッパではエイズ患者の 70% から 80% が同性愛ないし異性愛の男性であって、アフリカとかエイズが爆発的に増えるところ

は、約 80%は異性愛行為によると言われています。ですから先進国のほとんどは同性愛によって感染しているということです。男性の同性愛行為によって高い感染率がありまして、それはいわゆる肛門性交をするからです。そこで出血を伴う激しい行為で、出血が伴うのでそこから感染するという危険性が高まっていくわけです。注射で、たまたま使い回した注射器で感染してしまったとか、そういう血液感染したとかいうケースの方は、ごく稀だということです。ほとんどの場合は、もう 7 割 8 割、先進国であればそれはもう男同士の同性愛行為によるものだという現実があります。

で、日本においては毎年 1,500 人前後の新規の感染者およびエイズ患者が発生しているということです。2014 年には累計で 2 万 4,000 人を突破したということです。で、2014 年東京の方ですけれども、都内では HIV 感染者が 148 件ということで、その前の年に比べて 45 件も増えて過去最高を記録したというニュースが報じられました。男性が 96.9%、しかも同性間の性的接触が 72.9%を占めています。ですから日本も欧米と変わらないということです。日本の 7 割 8 割のエイズ患者というのは同性愛行為によって感染したということです。

で、もちろん同性愛だけが生理的な破壊をもたらすのではなくて、他の性感染症も深刻であります。梅毒というのがあります。それはもう最近では滅多に聞かないと思っているかもしれませんが、梅毒が今猛烈な広がりを見せています。同性間の感染が半数以上という、同性愛者が増えるに従って梅毒も増えているということです。先進国では梅毒は基本的には減少傾向にあるんですけども、これは昔の病気だというイメージを皆さん持っていると思いますが、でも近年では同性愛者が増えてきましたので、男同士でセックスをするということになっていきますので、梅毒が爆発的に増えています。日本では特に 10 代から 40 代の男性同性間の性的接触感染が急増しているということです。2014 年の感染者数は過去 10 年間で最多ということで、今梅毒感染者が確認されているのは 1471 人です。10 年前の 2004 年は年間感染者数というのは 536 人です。ですからもう 3 倍の水準に達しているということです。で、これはどんどん増えていくと考えられています。それが 1 つ同性愛によってもたらされる悪、生理的な破壊という事。ほんの数例ということでもあります。

でもこのエイズとか梅毒といった性感染症というのはもちろん今に始まった事ではないのは皆さんもご承知の通りだと思います。最近の研究によれば HIV というのは、もう古代から存在していたと言われていきます。で、それが古代文明を滅ぼすほどの原因となっていたということが推測されております。聖書においても、カナン人は約束の地を 400 年間支配していたわけです。で、彼らも性的倒錯者です。両性愛者でもありました。獣とも寝るようなことをしていたわけです。その 400 年間は実は神の悔い改めの猶予期間でもあったわけです。でも彼らは悔い改めることをしなかったので、神はヨシュアを用いてこのカナン人を裁くということをしました。で、**ヨシュア記 9 : 24** にそのことは書かれております。神はイスラエル民族を使ってこの性的倒錯によって自滅しようとしていた、おそらくは HIV のような恐ろしい性感染症、致命的な死に至るような感染力の強い病気を彼らは持っていたと思われまます。そんな彼らを滅ぼすために、それはむしろ彼らを楽しにする行為でもあったわけです。狂犬病の犬を殺すようなものというふうにもイメージ出来ると思います。もう助かりようがないわけです。そういった意味で、聖絶しなさいと、皆殺しにしなさいと、非常に恐ろしい命令ではありましたが、それにはもちろん根拠があるわけです。カナン人も先に冒頭でお話したようなソドムと同じような状況になったわけです。本来はエイズのようにゆっくりとじわじわと内側から蝕^{むしば}んで大変苦しみながら死んでいくところを、神はあわれみによってイスラエルを使ってあっさりと彼らを楽しにさせたわけです。安楽死というようなイメージでもいいかもしれません。それによって感染も防げるわけです。それは神様の側の事情であって、私たちはそこは計り知れない部分ですけれども、彼らを一気に殲滅^{せんめつ}させる。それには何らかの理由があったはずで、もう男も女も家畜まで全部殲滅せよ。聖絶せよというのはそういうことです。皆殺しにする。血も涙もない冷酷な残酷な

行為だと思いかもしれませんが、神の御性質を考えればそんな残酷な方ではありません。むしろ逆です。あわれみ深くて恵み豊かな方ですから、もしその神がそのような命令をされるとするならば、それなりの意図があったと推測出来るわけです。

で、またエイズの話をしたと思うんですけども、このエイズというのは後天性免疫不全症候群というふうに日本語で言います。もともとはそのようには呼ばれていませんでした。エイズというのは英語の AIDS という頭文字をとってそのように表現します。Acquired immune deficiency syndrome(AIDS)と言います。でも、かつてはそう呼ばれていませんでした。昔はエイズではなくてグリズと呼ばれていたということです。グリズというのは GRIDS、その意味は gay-related immune deficiency syndrome ゲイという言葉が入っていたんです。日本語にしますと同性愛性免疫不全症候群という、そこには同性愛という言葉がかつては入っていたんです。でもこの名称を後天性免疫不全症候群エイズに変えたのは、同性愛者を傷つけないように、刺激しないように、むしろ同性愛者を取り込んで支持に結び付けたいという政治的な理由から名称が変えられたと言われています。ですから本来はグリズ (GRIDS) と呼ばれていたわけです。でも、このグリズあるいはエイズというのは誰でも感染するウイルスではないわけです。免疫システムが短絡にもかかわらず、不特定多数の人とセックスをする。体液をどんどん体の中に取り込むわけです。それによって発生するものですから、普通に一夫一婦制で夫婦でセックスをしている限りはなんら問題ないわけです。同性愛の共同体というのは、一晩で 1 人や 2 人と関係を持つのではないです。何十人と関係を持つわけです。おぞましいですね。もう 100 人とか一晩で関係を持ちました、なんていう話もあるわけです。自分たちが如何に性活動が活発なのかということをおぞまげに話したりもするわけです。しかし恐ろしいことに一度この免疫システムが破壊されると、どんな原因でも死に至るという状態になります。聖書にはローマ 6 : 23 に『罪から来る報酬は死です。』と書かれている通りです。

で、3 番目の同性愛の悪と言うのは、同性愛は社会的破滅をもたらすということです。社会的破滅、これは歴史を見れば分かります。かつて同性愛が制度化された国家なり文化・文明は、ことごとく歴史上滅んでいきました。ですからアメリカがこの同性婚を合法化するという事は、制度化するという意味です。そうしたらアメリカは確実に将来滅びます。で、世界がその動きに乗っていますから、もうすでにほとんどの先進国は同性婚を合法化していますから、そのような国々、カルチャーは、文明は必ず滅びます。それは歴史が語っているところです。最も有名なのは 3000 年ぐらい前のギリシャ文明です。そしてギリシャ文化はローマ帝国にも影響を与えて、そのギリシャ、ローマでは同性愛というものが制度化されていたわけです。例えばプラトンの『国家』という本の中にエロスの説明があるんですが、カップルの形態として男と男、男と女、女と女、という 3 つの組み合わせがあると。それが古代ギリシャの普通だったわけです。プラトニックラブという言葉があります。これはプラトンから来ています。このプラトニックラブ、プラトニックな愛ということなんですが、肉体的な欲求を離れた精神的な愛とよく定義されますけれども、でも実はプラトン自身も同性愛者だったわけです。純潔を守ったわけではないです。ギリシャ文化というのは、同性愛というのが愛の中で最高のものだ、最も純粋なものだと説かれておりました。ですからギリシャ人の多くは妻とは別に同性愛人というのを持ったわけです。最も純粋な愛を彼らは文化としたわけです。で、それはローマ帝国にも引き継がれていきました。ローマ帝国の時代というのはまさに新約聖書の時代です。その中であってパウロは先ほど読んだ**第一コリント 6 章**で、同性愛は罪であってこれは神の国を相続出来ない致命的なおぞましい罪だと。**ローマ 1 章**でも同じことを言っているわけです。それは決して簡単な発言ではなかったと思います。当時の文化に真っ向から反対したわけです。そんなことを言ったらエライ目に遭うわけです。ローマ帝国滅亡前の最後の 15 皇帝のうち、14 人が同性愛者若しくは両性愛者でありました。皇帝だけじゃなくて、将軍とか司令官も皆同性愛者であって、それが原因でかつては世界最強の軍

隊と謳われたローマ軍も誰もが同性愛者なんです。上官も皆同性愛者ですから、当然部下と関係を持つわけです。戦国時代と一緒にです。で、そうやって男同士で性的行為にふけていけば、士気も落ちるわけです。で、戦意も萎えてしまうわけです。で、そこへ西ゴート人が襲来してきて、気が付いてみたらローマ帝国は消えていたと。何か決定的な戦があって滅んだと言うよりも、気が付いたらローマ帝国は消えていた、という滅び方をしました。その発端になったのは、その原因となったのは同性愛の横行だと、よく指摘されています。同性愛の横行が文明を滅ぼすという、そういう関係性が今指摘されています。先ほども紹介したとおり、近世の日本でも大名とか武将が、あるいは貴族・僧侶が同性愛行為を行って、それが社会の崩壊をもたらしていくということでもあります。

で、現在同性愛のメッカというのはアメリカのカリフォルニアのサンフランシスコであります。人口のもう 20%ぐらいが同性愛者だと言われています。もう 10 人に 1 人というのは当たり前です。そういう時代に私たちは生きています。で、その同性愛の街で今一番ゲイに優しい街ともてはやされているのが、意外な街です。それはイスラエルのテルアビブというところです。そこが、国際空港のある、世界ではエルサレムを首都と認めていないので、テルアビブがイスラエルの首都というふうになされて、そこはゲイに最も優しい街というふうには評価されています。イスラエルの街がゲイに最も優しい街。皮肉な話です。

で、4番目の理由は、同性愛は神学的損壊^{そんかい}をもたらすということです。今までの3つの理由というのは多分皆さんも想像がついたと思いますし、どこかで聞いたこともあったと思います。でも今からお話する4番目が最も重要であります。神学的な損壊、どういう事かと言いますと、創造者である神が人を造られた時、最初の人アダムです。アダムは満たされていました。なんら不足もなかったわけです。でも、ひとりぼっちで孤独だったわけです。それゆえに神はアダムに深い眠りを与えて、アダムにかけがえのないパートナーを与えました。助け手と言うパートナー、肋骨^{あばらぼね}から女を造って、その女はエバと呼ばれて、アダムの妻になるわけです。でもそのプロセスにおいてアダムは肋骨以上のものを失ったわけです。それは女性に特有の繊細さと、またコミュニケーションを重視する性質というものです。男性には欠けたものです。なぜ男性に欠けているのか。それは肋骨をとられたからです。それが女性に与えられた特質、いわゆる“女らしさ”、“女性らしさ”と言うものです。男らしさもあるわけです。そのエデンの園以来、男はその繊細さ、細やかさ、優しさというものを失ったわけです。それらは男からとられて、女に与えられました。でもそれは最初のアダムの話です。最後のアダムと呼ばれるイエス・キリストは、私たちがどのようにあるべきかということを教えてくださいました。すなわち、男性のたくましさと女性のしなやかさの完全なるハーモニー。それが最後のアダムと呼ばれているイエス・キリストの内に見られます。ですから私たちはイエスのようになるということを目的とし、ゴールとするわけです。まあ、イエスは大工でもありましたから腕力もあったわけです。幼子を腕に抱いて、神殿の大理石までも投げ飛ばすような、力強さと繊細さがあるわけです。幼子を決して傷つけない。また大理石をひっくり返して、両替台をひっくり返しても、生贄^{いけにえ}の動物は傷つけない。そういう繊細さを持ち合わせたわけです。誰も止められないような腕力、迫力を持ちながらも、傷んだ葦^{あし}を折ることもしないという繊細さ、優しさを持ち合わせた、バランスの取れたハーモニーの取れたお方です。嵐を一喝で鎮めたかと思ったら、井戸端で傷付いた女性にねんごろに話しかけてくださる、そういう優しいお方です。

これが同性愛と何の関係があるのかと今まで聞いて皆さんそう思ったかもしれませんが、それは大有りだということを言いたいと思います。と言うのは、同性愛というものが人間に心理的・生理的になすこと、それは男性のたくましさと女性の繊細さをなくすということです。同性愛によってそれらが失われていくということです。同性愛を通して男性が女々しくなっていきます。で、女性が男勝りになっていきます。サタンはこのことをよく知っています。ですからそれを破壊することによって、最後のアダムであるイエ

ス・キリストのイメージを台無しにしようとするわけです。それが神の形に似せられた人間の本来のあり方です。神の形というのはイエス・キリストの形ということの意味します。それを消し去りたいというのがサタンの狙いなわけです。同性愛をどんどん世界に蔓延させることによって、いわゆる男らしさ、女らしさは鳴りを潜めて、そして何はや何が男らしさなのか、何が女らしさなのかは分からなくなっていくます。今例えば学校現場とかで「男らしくしなさい。」なんて言ったらエライ目に遭います。「女らしく」なんて言ったら学校の先生は呼び出されます。それは差別だからです。男らしいとか、女らしいとか、と言うのは、これは差別だということになります。まあ、それぐらい下手に性別のことで口にするということは、もうタブーになってきています。「だらしない、男だろ。」とか、禁句です。そんなこと言ったら大変なことになります。男か女かも分からないわけですから、言うてはいけないわけです。何が男らしさで、何が女らしさかも分からなくなるだけじゃなくて、イエス・キリストの人格、イエス・キリストの性質、またイエス・キリストが私たちに何を願い求めておられるのか、何もかも分からなくなってしまう。そうさせるのがサタンの戦略で、そのために同性愛という罪が広く用いられているわけです。イエス・キリストが求めているもの、究極に願い求めておられるものは何か。それは花嫁です。花婿は花嫁を願い求めています。その花嫁とは、言わずと知れた教会です、私たちクリスチャンのことです。同性愛者は「同性同士で愛しなさい、愛し合いなさい。」と言います。男同士で、女同士で。でも男同士の場合、あるいは女同士の場合は、イエス・キリストと教会の関係を反映することは出来ないんです。キリストの教会に対する愛、これを男同士では表現出来ないわけです。女同士でも同じことです。同性愛が蔓延することによって、キリストと教会の関係というものがますます理解出来なくなるわけです。多くの教会が同性愛を容認して、同性愛の牧師までも按手しております。何故そういうことになってしまっているのか。それは一言で言いますと、彼らはイエス・キリストに対する愛、情熱を持っていないからです。彼らはイエスよりも自分を愛しているんです。サタンは狡猾ですから、同性愛というものをを用いて、イエス・キリストに対する愛とか情熱を奪い去っていくわけです。だから私たちの父なる神は同性愛を決して容認しません。それは禁止しているわけです。

で、同性愛があなたにどういう影響をもたらすのかということをお伝えしたいと思います。自分とは関係ないという事は全くないです。まず第一に3つの最初のもは、同性愛は世界に蔓延している。これはもう避けられないということです。イエス・キリストは世の終わりの時代を、ロトの時代のようにと表現しました。**ルカ 17:28**です。ロトの時代と言うのは、ソドムとゴモラの時代です。**創世記の19章**に、先ほどソドムとゴモラが如何に邪悪を極めていたのかということがそこに書いてあると言いました。ソドムにあったロトの家にあつた御使いが人の姿をとって客人として訪問したわけです。そうしたら町中の人、ソドムの住民が若い者から年寄りまですべての人がロトの家を囲んで「あなたの家に来たゲストを知りたい。」「知りたい」と言うのは、名前を知りたいとか、素性を知りたいとかじゃなくて、性的に知りたいと言って町中の人、若者から年寄りまでが皆セックスをしたい。そのゲストを輪姦したいと言っているわけです。それに対してロトは困って「娘をやるから、これで我慢してくれ。」と。だから同性愛者に限らないわけですね両性愛者もいたわけですね。それがソドムの現状だったわけですね。で、いま世界はソドム化しています。アメリカも同性婚が合法化されていけば、ますますソドム化が進んでいくと思います。サンフランシスコで行われる世界最大のゲイとレズビアン祭の祭典、そこには観光客を含めてですけども、100万人が訪れます。皆さんもサンフランシスコに行ったことがあるかもしれませんが、私ももっと若い時に、アメリカに住んでいる時にサンフランシスコに行った時には、エライ目に遭いました。同性愛者の特に集中している地域というのがサンフランシスコにあるわけです。知らないで歩いていたら、もうそこに行くということはもうその関係を持つということをや承してその地域に入るということの意味していましたので、そこでもう声をかけられて何人もの男性たちから色目を使われて、声をかけられて、何かお

かしいなと思ったんですけれども。結局は、性的関係を求められて慌てて逃げたという経験もありますけれども。タイに行った時も全く知らずに同性愛者たちがたむろする公園で昼寝をしていたら、それこそ囲まれて公然とレイプされそうになりました。恐ろしいですね。まあ、そういうことが他人事と置いていたら大間違いです。東京のレインボープライド 2015、今年春に行われた同性愛者の祭典、それは過去最高の動員数で 5 万 5,000 人が集まったということです。この数はどんどん年々増えていくと思います。安倍首相の奥さんの安倍昭恵さんもこういったゲイの祭典に顔を出したりするわけです。東南アジアでは最大のゲイ大国と言うのは仏教国のタイです。ですからアジアでもこういう同性愛の文化というのはどんどん広まりつつあります。NHK でも報じていましたけれども、LGBT (L と言うのはレズビアン、G と言うのはゲイ、B と言うのはバイセクシャル、T と言うのはトランスジェンダー) と言うことで、このトランスジェンダーというのがいわゆる性同一性障害と言うことです。体が男でも心が女、体が女でも心が男と言うトランスジェンダーです。それを総じて LGBT と言います。その数が 20 人に 1 人になってきているということを報じておりました。で、そのような LGBT と言われている人たちを歓迎しなければいけない、彼らを差別してはいけないという動きが世界でもどんどん増えていって、東京ディズニーランドでも同性カップルの結婚式が挙行されています。ビジネスでも同性愛を対象とした、同性愛者を対象としたビジネスがどんどん流行ってきているわけです。ニューヨークの同性婚 8,200 組以上あるんですけれども、経済効果は日本円にして 200 億円と言われていています。全米で言いますと、全米の LGBT の市場規模というのは 70 兆円以上あると言われていています。77 兆円とも言われています。で、日本における同性愛者の市場規模というのは、2007 年の数字ですけれども 6 兆 6,000 億円あるということです。どうして同性愛者がそうやって注目されて、彼らが性的マイノリティだから彼らの人権を守って彼らの人権を認めるように働きかけて、政治家もそうやって動かしていくというその動きは一体どこから来るのかと言ったら、1 つはこのお金です。もちろんオバマ大統領もお金でその立場を表明して今までやってこれたわけです。同性愛者を支持することで資金が入ってくるわけです。政財界というのがこの同性愛者によって動かされているという現実があるわけです。で、また彼らは精神的にも病を負ったりしていますので、向精神薬も常用しているわけです。そこには医療従事者とか、あるいは製薬会社との癒着があってボロ儲けしている人たちがあるわけです。で、そういった製薬会社に行政機関から官僚とか、あるいは政治家から天下りがあって。ですから政治家も同性愛者を歓迎して行くようになるわけです。そういう構図が裏にあるわけです。だからこれからますます同性愛市場というのは規模が大きくなっていきますので、会社とか企業でもどんどん同性愛を歓迎するようになります。同性愛者を対象としたビジネスがもっと増え広がっていくと思います。で、日本では結婚式もキリスト教式が流行っていますけれども、これも同性愛婚ということになれば、聖書を信じるクリスチャンの牧師ならばそれは出来なくなります。もう商売上がったというわけです。若しくは妥協してボロ儲けしていくか、どちらかしかありません。教会として存続したければ、同性愛者を受け入れていく。そうすれば教会は少なくとも存続は叶うわけです。そういう時代になっていきます。

で、日本では性同一性障害者特例法というのが 2004 年に施行されました。それは性同一性障害と言われる人の戸籍の性別変更を認めるという特例法ですけれども、長女を長男に改めるそういう戸籍が作られて、変更した性において社会生活を送ることが出来る。まあ、結婚も可能になると言うことです。で、2015 年には東京都渋谷区で同性パートナーの条例が成立しました。同性カップルが結婚に相当する関係であるということが証明されるということです。そういうことがこれからもどんどん加速化して、日本でもついには同性婚というものが合法化されていくという時代になっていくと思います。日本の同性愛者の割合というのは少なく見積もって 5%程度と言われていています。全国に約 600 万人、人口 10 万人の都市であれば 5,000 人が同性愛者と言われていています。数少ないように思うかもしれませんが、学校では 1 クラス 40 人であれば 2 人ぐらいは同性愛者がいるということです。

性同一性障害と言われているものに苦しんでいる子どもたちが最近増えているという報道もよくあります。で、埼玉県の小学校 2 年生の男の子 8 歳です。その男の子を女の子として受け入れるということが、埼玉のひとつの小学校で行われています。鹿児島の中 1 年生の女子生徒 13 歳に対しては、セーラー服ではなくて学ランで登校するということを認めました。また埼玉の小学校 2 年生の男の子は、女の子として認められたのは 2009 年の話です。男の子のままなんですが、スカートを着て学校に行くわけです。体育の授業では女の子として扱われます。トイレとか着替えは女性の教員の更衣室とか、女性の教員が使うトイレを使うわけです。もう小学校とか中学校でそのような同性愛の波がもう押し寄せているわけです。皆さんにも小学生の子供とか、中学生の子供がいると思いますが、子供たちはそういう現実にもぶつかるわけです。そのとき皆さんはどのようにそれを伝えるでしょうか。

で、教会も同性愛の波に揉まれています。欧米ではもう既に同性愛の教会というのはたくさん存在していますけれども、日本にも数は少ないですが今増加傾向にあるということです。実際に日本最大のプロテスタントのグループと言えば日本基督教団というところですが、その日本基督教団では公式にゲイとかレズビアンに按手をして牧師を作っています。ですからこれからゲイとかレズビアンの教会もどんどん増えていくと思います。社会だけではなくてキリスト教会でも同性愛が受け入れられていくという現実であります。

で、そういった現実には私たちはどうしたらいいのか。指をくわえたままで何も出来ないでいいのか、ということなんですけれども、聖書によれば**第一列王記 15 章**、そこに古代の話ですがその時代も同性愛の荒波に揉まれて、社会が崩壊しかかったそういう時代に生きていた人たちがいまして、彼らも指をくわえて静観するだけでは、もうこのままでは滅び行くだけなので、アクションを起こしたわけです。その**第一列王記 15 章**、特に**9 節**から**12 節**を見ていただくとそこには南ユダの王アサという人がリバイバルをもたらしたということが記録されています。リバイバルをもたらすということはそれまで完全に死んでいたような状態、それを息を吹きかえすようにリバイブすることなんです。で、死んでいた状態と言うのは、当時は神の都で神殿男娼が横行して、同性愛と言うものが公然と行われていたわけです。その同性愛を奨励するような偶像の宮がたくさん林立していたわけです。リバイバルを起こすためにアサ王は、真っ先にその神殿男娼を追放して、神殿男娼の巢食うその偶像の宮を破壊したわけです。それが私たちにもヒントとなります。もちろん新約聖書の時代においては、そのような行為は記録されていませんが、でも同性愛者、それは昔も今も存在するわけです。彼らを追放すべきですか。彼らの施設を破壊すべきですか。それはもちろんそれをするを私たちは文字通り行うべきではありません。むしろ私たちの内から同性愛者じゃなくて、同性愛という罪を排除すべきだということです。具体的にはどういうことかと言いますと、私たちは皆同性愛者ではないかと思えます、普通の異性愛者がここにいる大半の人だと思えます。にもかかわらずテレビをつけて同性愛のタレントが出ている。お笑い番組だったり、バラエティ番組だったり。それはいろんな興味深い番組かもしれませんが、でもそこで同性愛のタレントが出ている番組を見て一緒になって楽しんで笑っている。それを見て喜んでいるとするならば、それは問題です。あなたは同性愛を歓迎しているわけです。で、視聴率が上がることによってそれでまたお金が生じるわけです。それにあなたは協力しているわけです。ですから新約時代に生きているクリスチャンは、血肉に対する格闘をしているんじゃないです。目に見えない敵に対して格闘しています。目に見えない主権、力、この暗闇の支配者、サタンに対する戦いをしているわけです。ですから文字通り同性愛者を追放するとか、同性愛者を支援しているような団体なり会社を潰すとか、そういうことを私たちはすべきではないわけです。でもむしろ霊的な戦いとして祈っていく、その性的倒錯の罪に対してしっかりと対抗していくということです。アサ王のようにです。まあ、これは霊的に戦うという戦いを展開すべきだということです。これももしないでただ同性愛の流れに身を任せて、テレビとかではそういうタレントが面白おかしくやっているのを見て、

何も考えずに喜んで視聴率を上げるために協力している。そうやって私たちは霊的に死んでいくのであります。

で、もう一つ私たちは気をつけないといけないこととして、同性愛は必ず罪の正当化を目指していきます。もう冒頭でも言いましたけれども、「私は生まれつき性同一性障害です。同性愛者です。同性愛という病気なんです。性同一性障害という病気なんです。」本当は病気じゃないです。WHOでは治療には値しない、病気ではないというふうに言ってますので。「でも、もう生まれつきこれはもう人種なんです。」とか、「もうそれは新しい性別なんです。」とか言う人ももちろんあるわけです。で、そういう人権なり同性愛セクシャルマイノリティと呼ばれる人たちを認めないのは性差別であって人種差別あるというふうに非難されることがあるわけですが、まあもっともらしく正当化しているように聞こえます。そうやって同性愛というのは罪を正当化する動きに走っていきます。でもこれはすべての罪の傾向です。私たちも何らかの罪の傾向を持って必ずやる事はその罪を正当化するということです。「仕方がないんです。弱いんですから。そういうふうに生まれ育ったんです。そういう性格は生まれ持ったのものなんです。これは親から引き継いだものです。」とか、そうやって私たちも同じことを実はしているんです。罪は罪ですからありのまま受け入れられるべきものではありません。同性愛者でなくても異性愛者であったとしても、私たちには何らかの罪の傾向があるわけです。攻撃的な傾向、すぐブチ切れて怒鳴りつけたりとか。すぐに手を出すとか、暴力的な傾向もあるかもしれません。でも生まれつきの傾向だからといって、暴力行為が許されるということはありません。「もう親に殴られながら育ったんです。だから私は妻も殴るし子供も殴るんです。」そんな事は絶対に認められない、許容されないわけです。でも、同性愛ならばokです。「私は盗癖があるんです。すぐ万引きします。もう子供の頃から友達のおもちゃとかをすぐに盗んで、お店に行ったらすぐポケットに商品を入れてくるんです。これはもう癖なんです。」かといってその癖が認められて正当化されるといったらもちろんそうではない。それは止めなければいけないことです。同性愛も実は例外ではないんです。私はそういう意味で同性愛を差別するつもりはさらさらありません。同性愛は特別の罪でもないです。他の罪となんら変わりません。ですから他の罪と同じ扱いをしなければいけないということです。でも、そういうもともと持っているような傾向とか性質とか生まれつきなんていうものは、それは果たして変えられるのでしょうか。変えられるんです。**第一コリント 6:11**にこうあります。『あなたがたの中のある人たちは以前はそのような者でした。(そのような者と言うのは、その前を見て頂いたら、さっき読みました。その中には男娼となる者、男色をする者という同性愛者のことも書いてありました。以前はそういう者。)しかし、主イエス・キリストの御名と私たちの神の御霊によって、あなたがたは洗われ、聖なる者とされ、義と認められたのです。』コリントの街に暮らしていた人たちは常に同性愛に触れていたんです。と言うのはローマ帝国において同性愛のメッカと言ったらコリントの街だったんです。ですから教会には元同性愛者という人がいっぱいいたわけです。でもそれは慰めになります。彼らは以前はそのような者たちだったんです。もともと同性愛者だったんです。でもイエス・キリストを知ったことによって彼らは変えられたんです。イエス・キリストが生まれつきの傾向と呼ばれるものだろうと、それが〇〇障害と呼ばれるものだろうと、イエス・キリストが触れて下されば癒されます。不治の病だって癒されるんです。死人だってよみがえるんです。であれば、それが性同一性障害と呼ばれるものだろうと、それはもちろん医学的な根拠は何もありませんけれども、悪霊に取り憑かれた人だって癒されるわけです。イエスを信じれば必ず変えて頂けます。必ず癒して頂けます。その罪は赦され、その罪はきよめられ、そして聖霊の力でその罪を克服することが出来ます。その罪の傾向に打ち勝つことが出来ます。コントロール出来るようになるわけです。御霊の実は自制でもあるわけです。

で、3番目のポイントとして、同性愛は退廃的なライフスタイルの結果だということを常に覚えたいと思います。退廃的なライフスタイル。**エゼキエル 16:49**にそのことが書いてあります。『だが、あなたの

妹ソドムの不義はこうだった。彼女とその娘たちは高慢で、食物に飽き、安逸をむさぼり、乏しい者や、貧しい者の世話をしなかった。』これがソドムの不義、ソドムの罪だと聖書は断じています。ソドムの罪というのは、高慢、そして食物に飽きたという事、安逸をむさぼるという事、乏しい者・貧しい者の世話をしなかった事が発端となっていたということが指摘されています。現代的に表現すればソドムは、テレビだとか、ビデオだとか、インターネットだとか、ゲームだとか、携帯とか、スマホとか、雑誌とか、漫画とか、映画とか、そんなものずーっと見ていた。朝から晩まで、暇さえあれば。暇さえあれば携帯をいじくっている。暇さえあればスマホをいじくっている。歩きながらも、電車の中も、仕事の合間も、夜寝る前も寝る間も惜しんで。それはソドムと同じ状態なんです。高慢で、食物に飽きて、安逸をむさぼって、乏しい者・貧しい者なんかどうだっていい。何のケアもしない。自分のことばかりです。そのような豊かさ、時間が有り余っているわけです。暇だからそうやっていじくっているわけです。暇だからぼーっとしながらテレビを見ているわけです。暇だからネットサーフィンしているんです。暇だから SNS をずーっとやっているわけです。暇だから、やることがないから。だから何か刺激的なことを求めて、快楽を求めて、ポルノを見たり、出会い系サイトに入ってみたり、飽くことのないその欲望に、駆り立てられて行くわけです。昔も今も変わりません。歴史は繰り返します。豊かな時代に同性愛というのははびこるんです。同性愛が制度化された文明は栄えたんです。全部隆盛を極めた、きわめて先進的な近代的な文明。そこは必ず同性愛に染まっていきます。江戸時代、華のある時代、同性愛が一举に市民にまで蔓延したわけです。

ローマ 1 章を先ほど冒頭で読みましたけれども、人々は神を否定して自分のために偶像をこしらえて、動物のような振る舞いをして、ついには造られた物・被造物を拜んで、最終的にはその社会は同性愛に引き込まれていったと、その流れを私たちは見てきました。ですから同性愛がはびこっている時代、それは本を正せば、まず神を否定することから始まっているわけです。

今、神を否定する無神論とか、偶像礼拝とか、同性愛という、クリスチャンは何も関係ないと思うかもしれませんが。私たちは神を信じています。私たちは偶像礼拝者ではありません。私たちは同性愛者でもないわけです。でも、そこがミソです。というのは、罪というものは、自分とは関係ない、無関係だと思わせる。それが罪というものです。だから平気で罪を私たちは犯すわけです。で、その罪を平気で私たちは正当化するわけです。無神論も、偶像礼拝も、同性愛も同根の罪だということが聖書では指摘されています。神を否定することは偶像を認める事で、偶像認める事は神以外のものを愛する霊的姦淫行為であって、それは究極的には自分自身を愛する自己愛につながっていきます。同性愛というのは、自己愛の一形態というふうにも言えます。まあ、そこまで同性愛のことが聖書によって指摘されて、その本質と言うものが全て暴かれております。この世が何と言おうと、聖書は普遍的な真理です。書き換えられることのない古今東西どの時代にも通用する真理の教えです。ですから今現在言われている見解と言うのは、時代とともにまた変わると思います。そして同性愛はもはや性的マイノリティではなくなって、性的マジョリティになります。ソドムのようになっていきます。異性愛者が珍しい時代になります。男であれば、男も女を愛してセックスをする。それが普通なのに、「あなたは女としかセックスをしないんですか、気持ち悪い。」そういうふうな時代になります。しかしそれは世の終わりの時代で、その世の終わりにはイエス・キリストが戻って来られるということも私たちは教えられています。

まあ、これで最後にしたいと思うんですけども、イエス・キリストはもう戸口まで来ています。もうそこまで来ています。これから世界はロトの時代ようになっていきます。で、警告として身近なところで、アメリカにおいて同性婚が合法化されていく。その動きが日本にも当然影響を与えていくわけです。世界各国は世界の超大国にどんどん倣っていくと思います。あつという間に法案は通って、あつという間に同性愛はその地位を確立していくようになると思います。その中で私たちはイエス・キリストを待ち望みながら、イエス・キリストは同性愛者に対してどのように接するだろうか。イエスは同性愛者を愛されます。それは他のどの罪人に対してと同じ対応の仕方です。ですから私たちもここに同性愛者が来たら、他のどの罪人と何ら変わらない形で、一切蔑視するとか、見下すとか、何か汚い気持ち悪いものを見るかのような目で見ないで、他の罪人に対するのと全く同じように愛をもって接していく必要があります。かといって罪人を愛するからといって、罪の行為そのものを私たちは愛することはしません。罪人を愛しても、罪は憎むわけです。同性愛者を愛しても、同性愛という罪は憎むわけです。これははっきり罪だということは明確にしなければいけません。その上で、その罪はイエス・キリストによってのみ赦される。そしてイエス・キリストによってのみ克服出来る。どんな罪でも、たとえ同性愛の罪でも赦されるということをしかりと伝えていく必要があります。「もうこれは生まれつきの傾向だから、もう変えられないんだ。」と言うのは世間が植え付けているプロパガンダです。それは医学的根拠のない、それはデマと言っていると思います。実際にたくさんの同性愛者の人がイエス・キリストに出会っていても変えられているんです。今も乗り越えているんです。

で、そういう彼らをたちかえらせるという働きも、私たち終末時代に生きているクリスチャンに与えられている使命だと思ってください。ヤコブ 5:19 ~20 には『¹⁹ 私の兄弟たち。あなたがたのうちに、真理から迷い出た者がいて、だれかがその人を連れ戻すようなことがあれば、²⁰ 罪人を迷いの道から引き戻す者は、罪人のたましいを死から救い出し、また、多くの罪をおおうのだということを、あなたがたは知っていなさい。』とされています。イエス・キリストによって人は変えられます。『だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。』と第二コリント 5:17 にそう書いてあります。すべては新しくなるんです。もう古い性質は、古い傾向は、イエス・キリストによって新しくされるということ。これがクリスチャンの体験であります。ですからイエス・キリストをぜひ紹介してあげてください。同性愛者に対して、イエス・キリストは愛をも

って接してください。イエスがそうであるならば、私たちもそのようであるべきです。ですから私は、MGFは同性愛者を歓迎する教会だと公言したいと思います。だからといって同性愛者の人が押し寄せくるとは思いませんけれども。というのは、ハッキリそれは罪だと言うからです。でも罪人は愛されています。罪は赦されます。そしてその罪は必ず克服出来るという良い知らせを伝えたいと思います。中にはその罪を続けたい、それは罪とは認めたくない、やめたくない、と言う人たちは猛烈に反発すると思います。で、彼らは被害者意識を持って私たちに非難すると思います。寛容じゃないと。そしてまさに私たちはこの世の流れに逆行するわけですから、圧力プレッシャーを受けます。で、ますます私たちは信仰によって生きていくことが難しくなります。肩身の狭い思いをすると思います。そのことも覚悟してください。これからの時代クリスチャンであるということは、決して生易しいものではない、そういう時代にもう突入しているということも今この時覚えて頂きたいと思います。

で、今日はこれで終わりたいと思いますけれども、新約聖書の中にソドムについての言及が複数ありますので、これはソドムの滅びというのはただの昔話ではないということ。新約聖書の中に確認されています。そこは見落としてはいけないところです。同じようにソドム化すれば神は必ず裁きをもたらすということが新約聖書の中に繰り返し繰り返し言われています。先ほどのルカ 17 章のところでも、イエスが終わりの時代はロトの時代だと言いました。また第二ペテロ 2 : 6 ~ 9 にも世の終わりにはソドム化した場合、必ず神の裁きは怠りなく行われる。ユダの手紙 7 節にもソドムの罪が言及され、黙示録 11 : 8 にもソドムの罪が指摘されています。霊的に解釈しなさいと。ですから私たちはこれを霊的に解釈して、昔にあった神の裁きの物語ではないんです。昔あった事は今も歴史は繰り返して、日の下には何ひとつ新しい事は無いわけです。あぐらをかいていたら、安逸を貪っていたら、私たちもソドムと何ら変わらない、気がついてみたら麻痺しているわけです。それがもう当たり前、当然のようになっています。ロトはそうだったんです。でも心の中で彼は心痛んでいたというふうに言われていますから、私たちも今心痛んでいないならば、痛めて頂きたいと思います。憂慮して頂きたいと思います。ますますこういう時代になっていくということです。もう私たちはこれはもう変えられない、避けられない、世の終わりはもうそういう時代になると言われていますから、その上でどうすべきなのかということを考えていかなければなりません。この同性愛という問題だけでいくらでもお話出来ますけれども、是非他の罪と同列だということも覚えて、同性愛という罪だけにこだわりすぎて、自分自身の抱えている傾向、自分の弱さ、自分の罪、それを棚に上げて他人の罪にばかり目を留めてばかりいるようであれば、私たちは偽善者になります。もちろんいつの日か私たちも同性愛に陥ることもあるかもしれない。「私は平気、大丈夫。」絶対そんな事はないです。そうとも言えないわけです。ある時突然同性愛に走るということだってあり得ることです。クリスチャンでも同性愛の罪に陥る事はあることですから、このことも注意して頂きたいと思います。では、今日はこれで終わりたいと思います。